

- 問1 越前国の戦国大名である朝倉氏が、拠点である一乗谷を中心とした領国支配を強めるために実施した政策の説明として、最も適切なものはどれですか。(2024年 滋賀公立入試 類似)
1. 家臣を一乗谷に集住させ、領内に勝手に城を築くことを禁止した。
 2. 家臣をそれぞれの所領に住まわせ、各地に防御のための城を自由に築かせた。
 3. 室町幕府の法令のみを遵守させ、独自の法による支配を一切行わなかった。
 4. 一乗谷を商業専用の都市とし、家臣が居住することを厳しく制限した。
- 問2 戦国大名が「分国法」を制定した主な目的として、当時の社会情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。(2017年 茨城県公立入試 類似)
1. 自らの領国における家臣同士の私的な争いを禁じ、大名による統治を強化するため。
 2. 鉄砲の伝来に伴い、全国共通の武器使用ルールを室町幕府が定めるため。
 3. 朝廷の権威を借りて、隣接する他の領国を経済的に圧迫するため。
 4. 開墾した土地を永久に私有することを認め、農業生産力を高めるため。
- 問3 戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国(分国)内の武士や民衆を統制し、領国内の秩序を維持するために独自に制定した法律を何と称しますか。(2024年 千葉県公立入試 類似)
1. 御成敗式目
 2. 武家諸法度
 3. 公事方御定書
 4. 分国法
- 問4 15世紀後半、ポルトガルの支援を受けたバスコ・ダ・ガマが、リスボンを出発してアフリカ大陸南端の喜望峰を經由し、到達に成功した地域はどこですか。(2020年 新潟県公立入試 類似)
1. インド
 2. 中国
 3. 北アメリカ
 4. カリブ諸島
- 問5 戦国時代、各地の戦国大名は自らの実力で領国を統治するために独自の法令を制定しました。これらの法令において、「家臣同士が勝手に婚姻を結ぶことを禁止する」や「領国内での勝手に築城を禁止する」といった項目が盛り込まれた主な目的として、最も適切なものはどれですか。(2024年 東京都公立入試 類似)
1. 領国内の家臣や国衆の結びつきを制限し、大名による領国支配を強化するため
 2. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目の内容を、全国の農民に分かりやすく広めるため
 3. 江戸幕府が定めた武家諸法度を遵守し、将軍への忠誠心を示すため
 4. 朝廷から与えられた守護としての権限を、隣接する他の領国へ拡大するため
- 問6 16世紀のヨーロッパで起こった宗教改革の背景やその内容を説明した文として、最も適切なものはどれですか。(2023年 栃木県公立入試 類似)
1. カトリック教会が資金集めのために販売した免罪符に対し、ルターが抗議の声を上げた。
 2. 蒸気機関の発明によって生産効率が向上し、資本主義経済が急速に発展した。
 3. 北アメリカの植民地がイギリスからの独立を宣言し、近代的な民主主義国家を樹立した。
 4. モンゴル帝国が勢力を拡大し、中国を支配して国号を元と定めた。
- 問7 16世紀後半に甲斐や信濃の一部で使われていた、度量衡に関する独自の基準である「甲州ます」の説明として、最も適切な記述を選びなさい。(2020年 愛知公立入試 類似)
1. 中央の京で使われていた標準的な枙とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた
 2. 将軍の足利義昭が京都の商人に命じて作らせ、全国の有力大名に配布した標準的な枙である
 3. 江戸幕府が貨幣制度の安定を目指して制定した、全国で唯一使用が認められた公認の計量器である
 4. 南蛮貿易を通じてキリスト教の宣教師たちが持ち込んだ、西洋式の容量単位に基づいた枙である
- 問8 戦国時代に各地を支配した戦国大名の多くは、「下剋上」という風潮の中で台頭しました。この時代における「下剋上」の説明として、当時の社会状況をふまえた最も適切なものはどれですか。(2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。
 2. 農民たちが宗教的な団結を強めることで、武士の支配を実力で排除して自治を行った。
 3. 幕府から任命された守護が、自らの実力を高めて隣国を吸収し、支配権を世襲していった。
 4. 朝廷の権威を背景とした下級武士が、実力行使によって幕府の政治を批判し、地位を向上させた。
- 問9 戦国大名が「分国法」を定めた目的や、その内容に共通する特徴として最も適切なものはどれですか。(2023年 静岡県公立入試 類似)
1. 家臣同士の私的な争いを禁じ、大名の強力な権限で領国内の秩序を維持すること
 2. 鎌倉幕府が定めた武士の慣習を全国一律に適用し、朝廷の権威を守ること
 3. 江戸幕府の許可を得て、大名同士の婚姻を制限し、軍事を抑え込むこと
 4. キリスト教の布教を制限し、特定の寺社を保護して領国内の思想を統一すること
- 問10 室町時代から戦国時代にかけて見られた、実力のある下の者が上の者を倒し、その地位を奪い取るという社会的な風潮を何と呼びますか。(2018年 秋田県公立入試 類似)
1. 下剋上
 2. 惣村
 3. 寄合
 4. 下請け
- 問11 戦国時代の九州を代表する大名で、現在の府内(大分市)を拠点にキリスト教を保護し、有馬晴信や大村純忠とともにローマ教皇のもとへ「天正遣欧少年使節」を派遣した人物は誰ですか。(2025年 京都公立入試 類似)
1. 大友宗麟
 2. 朝倉義景
 3. 今川義元
 4. 北条氏康
- 問12 室町幕府が最終的に滅亡を迎えた過程について、1573年に行われた出来事として正しい説明はどれですか。(2018年 静岡県公立入試 類似)
1. 織田信長が、対立を深めていた15代将軍の足利義昭を京都から追放した
 2. 織田信長が、鉄砲を組織的に用いて長篠の戦いで武田勝頼の軍勢を破った
 3. 織田信長が、布教活動を行っていたフランシスコ・ザビエルにキリスト教の保護を約束した
 4. 織田信長が、比叡山延暦寺を焼き討ちして宗教勢力の軍事を排除した
- 問13 戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。(2025年 京都公立入試 類似)
1. 守護大名
 2. 戦国大名
 3. キリシタン大名
 4. 寄親
- 問14 武田信玄が定めた法の中に、「喧嘩をした者は、いかなる理由によるものであっても、双方ともに処罰する」という、いわゆる『喧嘩両成敗』の規定が見られる。戦国大名がこのような厳しい規定を設けた主な目的として、最も適切なものはどれか。(2021年 沖縄公立入試 類似)
1. 家臣同士が私的な武力行使をすることを禁じ、大名の裁判権を確立して領国内の紛争を鎮めるため。
 2. 朝廷から与えられた守護としての権限を、隣国の領主に対しても示すことで領土を拡大するため。
 3. キリスト教の博愛の精神を取り入れることで、家臣同士の平穏な共同体をつくるため。
 4. 農村における生産性を向上させるために、武士が農業に専念できる環境を整えるため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 家臣を一乗谷に集住させ、領内に勝手に城を築くことを禁止した。	朝倉氏は一乗谷に家臣を集めて住まわせることで、家臣がそれぞれの領地で独立した勢力を持つことを防ぎ、主君による直接的な統制を強めようとしていました。また、家臣が勝手に城を築くことを禁じた点も、大名への権力集中を図る戦国大名特有の政策といえます。このような集住政策は、後の江戸時代の城下町の形成にもつながる先駆的な取り組みでした。
問2	答え 1 自らの領国における家臣同士の私的な争いを禁じ、大名による統治を強化するため。	戦国大名は、家臣同士の復讐や紛争（自力救済）を禁止し、大名による裁判を受けさせることで領内の秩序を保とうとしました。これにより、軍事力を維持しつつ大名の権力を絶対的なものにする狙いがありました。「喧嘩両成敗」の規定などはその代表例です。他の選択肢にある「全国共通のルール」や「墾田の私有」などは、分国法の性格とは異なります。
問3	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の大名は自らの実力で領国を治める必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の規定や、年貢に関する取り決めなどを定めた独自の法を制定しました。江戸幕府が制定した「公事方御定書」とは時代背景が異なります。
問4	答え 1 インド	ポルトガルは香辛料などの直接取引を目指し、大西洋を南下してインドへ至る東回り航路の開拓を進めました。1498年にバスコ・ダ・ガマがカリカットに到達したことで、イスラム商人やイタリアの諸都市を通さずにアジアと直接貿易を行う道が開かれました。
問5	答え 1 領国内の家臣や国衆の結びつきを制限し、大名による領国支配を強化するため	戦国大名は、室町幕府の権威が衰退する中で、自らの実力で領地を治める必要がありました。分国法は、家臣たちが勝手に同盟を組んだり（婚姻の制限）、独自の軍事拠点を持つたり（築城の制限）することを防ぎ、大名を中心とした一元的な統治体制を築くために制定されました。これにより、領国内の紛争を裁定し、団結力を高める狙いがありました。
問6	答え 1 カトリック教会が資金集めのために販売した免罪符に対し、ルターが抗議の声を上げた。	宗教改革は、ルターが「九十五か条の論題」を発表し、カトリック教会の教えではなく聖書の内容こそが正しいとする立場をとったことで始まりました。他の選択肢のうち、産業革命は18世紀後半、アメリカ独立戦争は18世紀後半、元の成立は13世紀の出来事であり、16世紀の出来事ではありません。
問7	答え 1 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた	甲州ますは、戦国時代に武田氏の領国などで使用された枡です。当時、中央では「京枡」が使われていましたが、地方の有力大名は自分の領内の経済や税（年貢）の徴収を管理するために、独自の度量衡を定めていました。甲州ますの容量が京の基準と異なっていたことは、当時の地域社会が独自の経済圏を持っていたことを象徴しています。足利義昭などの将軍が全国の基準を統一した事実はなく、むしろこうした地域ごとの差異が戦国時代の特徴の一つと言えます。
問8	答え 1 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。	戦国時代には、本来は主君に仕える立場であった守護代や国人などが、武力などの実力によって守護大名を追放したり、倒したりして自らが戦国大名へと成長する事例が多く見られました。これにより、室町幕府の任命に基づかない新しい支配体制が各地に形成されました。他の選択肢は一向一揆や守護大名の強化、幕末の動きを説明したものです。
問9	答え 1 家臣同士の私的な争いを禁じ、大名の強力な権限で領国内の秩序を維持すること	戦国大名は、家臣たちの私的な争いが領国の混乱を招くことを防ぐため、武力による解決を禁じました。多くの分国法では、争った両者を理由に関わらず処罰する「喧嘩両成敗」の原則などが盛り込まれ、大名が絶対的な裁判権を持つことで領国支配を強めようとしていました。大名同士の婚姻制限は江戸時代の武家諸法度の内容です。
問10	答え 1 0 下剋上	応仁の乱以降、足利将軍家や守護大名の権威が失墜する中で、各地で実力を持つ者が地位を奪う現象が目立ちました。この言葉は当時の不安定ながらも活力のある社会情勢を象徴しています。
問1	答え 1 1 大友宗麟	大友宗麟は豊後（大分県）を本拠地とした有力な戦国大名です。フランシスコ・ザビエルの布教を認めて以降、キリスト教を厚く保護し、海外貿易を積極的に行いました。1582年には、伊東マンショら4人の少年をローマへ派遣する使節の送り主の一人となりました。
問1	答え 1 2 織田信長が、対立を深めていた15代将軍の足利義昭を京都から追放した	織田信長は当初、足利義昭を擁立して京都に上洛しましたが、後に自らの政策を制限しようとする義昭と激しく対立しました。1573年、信長は義昭を京都から追放し、これにより200年以上続いた室町幕府は実質的に滅亡しました。鉄砲の伝来やキリスト教の布教開始はそれ以前の出来事であり、幕府滅亡の直接的な政治的要因は信長と将軍の対立にあります。
問1	答え 3 3 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問1	答え 1 4 家臣同士が私的な武力行使をすることを禁じ、大名の裁判権を確立して領国内の紛争を鎮めるため。	中世の武士社会では、自らの権利を実力で行使する「自力救済」が一般的でしたが、これは領国内の混乱を招きました。戦国大名は喧嘩両成敗の原則を導入することで、家臣が勝手に争うことを禁じ、すべての紛争解決を大名の裁定に委ねさせることで、強力な領国支配を実現しようとしていました。